



チェコが生んだシュルレアリスト、シュヴァンクマイエルの  
不思議なアニメーション。



# シュヴァンクマイエル 映画祭2015 | Jan Švankmajer

© CONDOR FEATURES, Zurich./ Switzerland, 1988, Athanon, Krafky Film Praha a.s., Narodni Divadlo Praha  
配給: チェコスキーター、ザジフィルムズ、ザフィーラ、レン コーポレーション  
協力: CZECH CENTRE TOKYO, チェコ屋 (CHEROGURA), パラボリカ・ビス (parabolica-bis)

[svank2015.jimdo.com](http://svank2015.jimdo.com)



# 世界が絶賛する映像の錬金術。4プロ・21作品を一挙上映!!

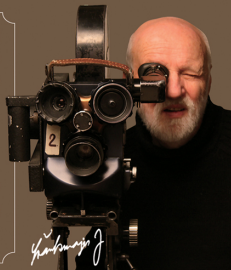
## シュヴァンクマイエルが人形演出をしたラテルナ・マジカの『魔法のサーカス』も一部特別上映!!

私の全ての映画は、全体主義やいわゆる民主主義という文明の「裏面」において創られました。同時に、これらの映画は想像的なものであり、またこの幻術的な想像力は常に転覆的です。何故なら想像力は、実在であることより可能であることを優先するからです。また、魔術的な想像は日本の伝統的な美術や芸術にも見受けられます。これゆえに、私の映画は日本の観客の嗜好に受け入れられているのかもしれませんが。同じく私は、黒澤明監督のサムライ映画や魅魘魅に溢れる歌舞伎なし伝統的な浮世絵などを嗜好しています。

ご覧いただく映画祭のために選定した映画は、私の創作において想像の上位的な地位を示しているものです。何故なら、私は常に、フランスの偉大な詩人ジャック・ボードレーールのように、想像力を人間の諸能力の女王と見なしていますから。

ヤン・シュヴァンクマイエル

JAN SVANKMAJER / 1934年、チェコスロヴァキアのプラハ生まれ。舞台芸術に関わり、1964年から映像作品をつくる。共産党政権下でプラハのスタジオに在り、自由化後も全ての現実に無意識の領域からの抵抗を続け、その映像表現はカンヌ、ベルリン、アムステルダム、チェコ国内など世界中の映画祭で絶賛されている。2005年に亡くなった妻のオヴラ・シュヴァンクマイエルと映像や美術作品など様々な共同作業を行っていた。現在、チャペック原作の『出』の撮影準備中。



脳裏に潜む記憶の断片が、真つ暗な闇の中から歯車時計に乗って引き出されヴィジュアル化されていく。奈良美智(美術家)

### Aプロ 『アリス』(1988/84分)

©CONDOR FEATURES, Zurich/Schweizland, 1988



ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』を原作に3年の歳月をかけた製作した長篇第一作。実写とコマ撮りの組み合わせ。アリスの人形や白ウサギの剥製、籠下の芋虫など、様々なオブジェがユーモラスにグロテスクに動き回る。88年のベルリン映画祭でプレミア上映、アムステルダム映画祭最優秀長篇アニメーション映画賞受賞。

### Bプロ 短篇7作 (計97分) ©Kratky Film Praha a.s.



『魔法のサーカス』(1977/9分)  
©1977 Narodni Divadlo Praha  
シュヴァンクマイエルが人形を担当したラテルナ・マジカの舞台作品の一部を特別上映。  
「棺の家」ド・ファン」のモチーフが登場。



『棺の家』(1966/10分)  
道化師がモルモットを運り木で取りかかすラプソディック・コメディ。マンハッタン映画祭などに受賞。



『エストラダ』(1966/7分)  
フロッケータンの技法を使った、全てのエピソードで構成。カルロヴィ・ヴァリ映画祭などに受賞。



『D'ファン』(1970/33分)  
長篇『ファスト』にも繋がる、放浪息子ド・ファンの復讐劇。チェコスロヴァキア文化者賞など受賞。



『コストニエ』(1970/10分)  
フス戦争の死者など数万人の骸骨のオブジェで埋められた実在する納骨堂のドキュメンタリー作品。



『レオナルドの日記』(1972/12分)  
レオナルド・ダ・ヴィンチのデッサンや図面が動き出し、ニュース映像を組み合わせたコラージュ。



『アッシャー家の崩壊』(1980/16分)  
ポーの原作。『全ての無機物にも知覚はある』と家と精神が壊れていく。国際シネクラブ同盟賞など受賞。

### Cプロ 短篇6作 (計91分) ©Kratky Film Praha a.s.



『シュヴァルツェヴァルト氏とエドガルド氏の最後のトリック』(1964/12分)  
ラテルナ・マジカ的な映像・短篇デビュー作。ベルガモ映画祭などに受賞。



『J.S.バッハ-G線上の幻想』(1965/10分)  
ひび割れた壁や窓がバッハの曲とともに動き出す即興的な撮影作品。カンヌ映画祭短篇映画賞受賞。



『庭園』(1968/17分)  
郊外の友人の家で不思議な人々が生け垣のように手を繋いで立っていた。ヴェネツィア短篇映画祭受賞。



『家で静かな一週間』(1969/20分)  
ドアから部屋を覗くと日常的な物が動き回る超現実的な世界があった。オーバーハウゼン映画祭などに受賞。



『オトランドの城』(1973-79/18分)  
幻想小説『オトランド城奇譚』の舞台が、東ボヘミアに実在するという仮説を切り絵とテレビ映像で描く。



『ジャバウオッキー』(1971/14分)  
『鏡の国のアリス』の怪物ジャバウオッキーの詩が朗読され、おもちゃが動き始める。アムステルダム映画祭などに受賞。

### Dプロ 短篇7作 (計86分) ©Kratky Film Praha a.s.



『自然の歴史(組曲)』(1967/9分)  
巻貝には虫頭、鳥類を経て人類に至る博物誌。オーバーハウゼン映画祭マックス・エルンスト賞など受賞。



『部屋』(1968/13分)  
割れない卵や後頭部が映る鏡など、部屋の悪意に徹底的に翻弄される男。ブリュッセル映画祭などに受賞。



『対話の可能性』(1982/12分)  
クレアニメの金字塔。ベルリン映画祭90年アムステルダム映画祭「過去に上映された最高の映画」に選出。



『地下室の怪』(1982/15分)  
『オチサーネク』にも繋がる。地下室にじがいても取りに行く少女と、地下にいる不思議な人や物。オーバーハウゼン映画祭受賞。



『隙穴と振り子』(1983/15分)  
異端審問で捕われた男がギロチンや火を喰く機械から逃れようとする。男の視点から恐怖を描く。



『男のゲーム』(1988/15分)  
熱狂的にサッカーを観戦する男。切り絵とクレイで同じ顔の選手が次々と倒れていくブラックユーモア。



『闇・光』(1989/7分)  
灯りがともされ、手・目・耳など身体の感覚器・パーツが部屋の中に見える。ベルリン映画祭などに受賞。

シュヴァンクマイエル  
映画祭 2015 Jan Svankmajer

6/27(土) ⇒ 7/3(金) レイトショー

(1日1回上映。上映時間は6/23(火)に決まります)

6/27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	7/1(水)	2(木)	3(金)
A 『アリス』 (84分)	B 短篇 (計97分)	C 短篇 (計91分)	D 短篇 (計86分)			

- 1プログラム 当日券 1400円 / 学生 1200円 / シニア・高校生以下 1000円
- 2プログラム 当日券 2400円

- 各回完全入替制。差替状況に関わらず差替券を発行しております。
- 途中入場はご遠慮下さい。
- 本曜日はお二人で2000円サービスデー
- ★木曜日はレディースデー1000円
- ★毎週日曜日は1800円特典1000円
- ★毎月1日は映画サービスデー1000円
- ★★毎月5日お二人で2000円

ドルビージェット(SRD)音響

シアターキノ

狸小館6丁目 南3条グランビル2F  
☎011-231-9355  
http://theaterキノ.net/ 2015

